

CONTENTS

特集
Special Features

ソフトウェアレビュー／ソフトウェア インスペクションと欠陥予防の現在

Trend of Software Reviews, Software Inspections and Defect Prevention

- 375** 編集にあたって 森崎修司
Foreword Shuji MORISAKI (Nara Institute of Science and Technology)
- 377** 1. ソフトウェアインスペクションの動向 森崎修司
Software Inspection Trends Shuji MORISAKI (Nara Institute of Science and Technology)
- 385** 2. ソフトウェアインスペクションの効果と効率 野中 誠
Efficiency and Effectiveness of Software Inspections Makoto NONAKA (Toyo Univ.)
- 391** 3. 上流品質向上に関するソフトウェア評価技術の国際標準化動向 込山俊博
International Standardization Trend of Software Evaluation Technologies for Quality Improvement in Upper Phase Toshihiro KOMIYAMA (NEC Corp.)
- 400** 4. 上流工程における発注者視点からの品質向上への取り組み 清田辰巳
Measures for the Improved Quality in the Upstream Software Development from the Viewpoint of Ordering Parties Tatsumi KIYOTA (Tokyo Stock Exchange, Inc.)
- 405** 5. 第三者インスペクションによる品質検査と欠陥予防 細川宣啓
Quality Inspection - Defect Prevention from Project Outside Nobuhiro HOSOKAWA (IBM Japan Ltd.)
- 412** 6. テストエンジニアが参加するアジャイルインスペクション 永田 敦
Agile Inspection with Perspective of Testing Engineer Atsushi NAGATA (Sony Corp.)



解説 Articles

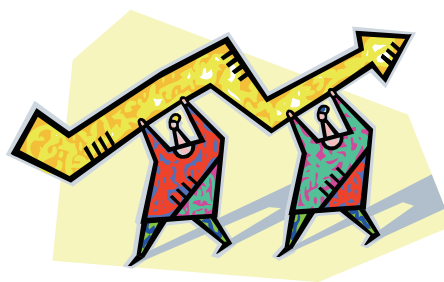
- 418 可視光通信の現状と展望～ユビキタスで安全な ICT インフラを目指して～ 鈴木修司
Survey and Future View of Visible Light Communications Shuji SUZUKI (NEC Corp.)
- 426 IMS : 新しいコミュニケーションスタイルの実現～次世代ネットワークのサービス基盤
IP Multimedia Subsystem (第 2 回) 小田稔周・松村剛志・村上慎吾・安川健太
IP Multimedia Subsystem (IMS) : Enabler of New Communication Style - Service Infrastructure in Next Generation Network -
Toshikane ODA, Takeshi Matsumura, Shingo MURAKAMI and Kenta YASUKAWA (Nippon Ericsson K. K.)
- 436 実利用が進む顔画像処理とその応用事例 (後編) 顔画像処理の応用事例 勞 世竈・山口 修
Facial Image Processing Technology for Real Applications : Applications of Facial Image Processing Technology Shinhong LAO
(OMRON Corp.) and Osamu YAMAGUCHI (Toshiba Corp.)
- 444 知的 Web のためのマッシュアッププログラミング 新谷虎松・大園忠親
An Introduction to Mashup Programming for Web Intelligence Toramatsu SHINTANI and Tadachika OZONO (Nagoya Institute of Technology)

報告 Reports

- 369 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式 和田英一
Nomination of the Information Processing Technology Heritages Eiiti WADA (IIT Research Lab.)

コラム Columns

- 454 わが支部の魅力はここにあり 九州支部：地域に密着した研究コミュニティの活性化
尾家祐二
Activities in Regional Sections : Various Activities for Vitalizing Reseach Community in Kyushu Yuji OIE (Kyushu Institute of Technology)



その他

- | | |
|---|---------------------|
| 456 会員の広場 | 467 おふいすらん |
| 458 IPSJ カレンダー | 469 アンケート用紙 |
| 460 人材募集 | 470 編集室 / 次号予定目次 |
| 465 有料会告 | 471 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| 466 第 53 回通常総会の開催について / 論文誌ジャーナル掲載
論文リスト | 472 賛助会員のご紹介 |

規格部

〒 105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel(03)3431-2808 Fax(03)3431-6493 E-mail:standards@itscj.ipsj.or.jp http://www.itscj.ipsj.or.jp/

支部

北海道 / 東北 / 東海 / 北陸 / 関西 / 中国 / 四国 / 九州



昔(大昔?)は身の回りにごろごろしていたものがまったく姿を消している、という例は多い。紙テープの手動巻き取り器や直径40センチ厚さ数センチの5メガバイトのリムーバブルディスクなどが、個人的には懐かしい。「情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式」(和田英一)は、情報処理学会で構想している実物博物館の実現へ向けて実施した遺産認定などの報告。分散をsatelliteと言っているのは、中央博物館の実現を目指しているから。

心理歴史学という話がある。膨大な人数の人間に対して、その心理的な慣性を定式化し、気体分子に対する統計的扱いの真似をして、過去のデータからパラメタを推定して未来予測とする、というもの。こんなことはとてもできそうもないが、それもそのはず、アシモフのSF「ファウンデーション」シリーズに出てくる「仕掛け」の1つである。この絵空事と昨今の金融危機の直前の状態が重なって見えるのは、気のせいだろうか。世の中すべてが統計的な安定状態であるという仮定にもとづく金融工学なる道具を使った精緻と言われたシステムは、わずかとも思えるゆらぎの前にあえなく崩壊してしまった。「あんなことがうまくゆくはずはなかった」というのは、完全なる後知恵である。システムに人間が絡んでくるとモデル化が異様に複雑になり、普通は近似や概算でしか扱えないようになる、というの、情報分野の人にとっては常識である。心理学にしても、人間を外からこわごわと触っているだけなので、大雑把な助けになるだけである。ちなみに、心理歴史学のみによる制御は数百年でいきづまり、超能力に頼るようになる、というのがお話しである。

そうは言っても前に進まなければいけないのが、情報分野、とくにソフトウェア作りの仕事である。今月号の特集は「ソフトウェアレビュー／ソフトウェアインスペクションと欠陥予防の現在」で田中秀樹、森崎修司がエディタ。プログラムを走らせていない段階でソフトウェアの欠陥を静的に調べる活動。一般的な話のあと、さまざまな指数を使ったメトリクスの話、SC7による標準化の話、企業における実際的な実施例などが示される。欠陥は早期に発見すればするほど、全体に対する効果が大きいとされるが、コード行数50,000のソフトを4工程で作成するモデルで、さまざまな手戻り率を仮定した例では、全工数が10%ほど減るといふ。高齢者用住宅向けのシステム仕様の欠陥により、入居者が死亡してしまった、というような事例はたくさんあるのであろうか。インスペクション専門チームの設定が有効であることはうなずける。

「顔画像処理の応用事例」(勞世竈、山口修)は、“実利用が進む顔画像処理とその応用事例”の2回目。知らない間に、主にデジカメを中心とした機能が増えてきているらしい。顔部分の逆光処理、笑顔シャッター、赤目除去、美肌補正など盛りだくさん。パソコンへのログインや映像インデクシング、あるいは携帯やゲーム機での応用などもあるが、群集を相手とするセキュリティ的な使い方など、気味の悪いものもある。

「IMS:新しいコミュニケーションスタイルの実現～次世代ネットワークのサービス基盤IP Multimedia Subsystem」(小田稔周他)の2回目は、前回と同じく接続プロトコルの話が中心で、サービスの話はあまりない。

「知的Webのためのマッシュアッププログラミング」(新谷虎松、大園忠親)は、最終的にはユーザの目の前にあるWebブラウザに、さまざまなサービスをいろいろ組み合わせた結果を提示するための仕組みの話。確かに、地図検索や道案内、店舗情報や天気情報などを組み合わせた画面をよく目にするようになった。マッシュアップのために便利なWeb APIの全体的な整備が求められているという。セキュリティの影は例のごとくつきまとうが。

「可視光通信の現状と展望～ユビキタスで安全なICTインフラを目指して～」(鈴木修司)は、LEDが高速スイッチング可能であることを利用した“見える通信路”の話。IEEE802.15での標準化作業も進んでいるという。ただの照明のような顔をしたデータ送信源は、mixed reality的な応用も広そうである。

「地域に密着した研究コミュニティの活性化」(尾家祐二)は、“わが支部の魅力はここにあり”のシリーズで、九州支部の話。一般的な活動紹介なので、中味はよく分からない。

(川合 慧)



会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

武田 浩一

松原 仁

本号エディタ

位野木万里

兼宗 進

久門 耕一

倉掛 正治

胡 振江

後藤 厚宏

佐伯 元司

白木 善尚

田中 哲朗

田中 秀樹

長瀬 友樹

長谷川 亨

細川 晃平

前田 英作

間瀬 久雄

森崎 修司

安川 健太

山之内 徹

山本里枝子

編集スタッフ

後路 啓子

町田 善江

綿谷 亜樹